

「スポーツの力」×「東京2020大会」応援企画

世界からのメッセージ

インドネシア大使館



インドネシア大使からのスポーツ応援メッセージ

東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、「東京大会」）の開幕が目前に迫ってきています。インドネシアは、新型コロナ禍においても東京大会が成功裏に開催されるよう日本オリンピック委員会を常に支援及び応援をしてきました。



インドネシア国民にとって、スポーツはただの娯楽や「暇つぶし」に觀賞するだけのもではなく、国民の存在感を示し、国民の名を高らしめ、国民をひとつにするものです。

インドネシアの選手団は、東京大会の舞台においてインドネシアの国旗である紅白旗をはためかすことを目指すよう選抜された個人・選手から形成されています。

インドネシアは、東京大会が成功裏に終わり、新型コロナ禍における復興の追い風となり、記録更新のための公正な競技の場となることを祈念します。

インドネシアからスポーツ応援メッセージを世界へ！

ハリ・アクマディ
駐日インドネシア全権特命大使

インドネシアの得意競技種目

バドミントンと重量挙げはインドネシアの得意種目で、これまでオリンピックだけでなく様々なスポーツの大会で他の種目に比べ多くのメダルを獲得しています。

現在、世界ランクの上位5人に入る選手としてはバドミントンではケビン・サンジャヤ・スカムルヤとマルクス・フェルナルディ・ギデオン、モハマッド・アフサンとヘンドラ・スティアワンの男子ダブルス、重量挙げではエコ・ユリ・イラワンがいます

その他にも、インドネシア選手はアーチェリー、陸上、射撃、ボートでも参加標準を突破しており、東京大会でインドネシア国民の名を高らしめるため成果を得ることが期待されます。



インドネシア選手団の準備

インドネシアは東京大会に向け最良の選手の準備を続けており、現時点で、6競技（バドミントン、重量挙げ、アーチェリー、射撃、陸上、ボート）19名の参加が決まっています。

一方、サーフィン、ビーチバレー、スケートボード、空手などで参加標準を突破し、参加人数が増えることが期待されます。

大会開幕まで約2か月間、選手は練習を続けており、エルサルバドルの「2021 ISAワールドサーフィングゲームス」に参加している選手もいます。一方、ウィンディ・チャンティカはジュニア女子重量挙げのスナッチ競技、クリーン&ジャーク競技、トータル重量で3つの金メダルを獲得しています。

新型コロナ禍という状況で練習困難な状況ですが、インドネシアは東京大会で最良の成果を得られるでしょう。



東京大会でのインドネシアの子供たちの夢

「スカル、バドミントンしようよ」そう言われたスカルは、ウチョックとアチョンと遊ぶために、ラケットとシューズを取りに行きました。3人の子供たちは村落に住んでおり、質素なネットとシャトルで自宅の近くの空き地でバドミントンをしているのです。

順番を待ちながらスカルは、オリンピックの舞台で国の代表としてプレーをしている自分の姿を思い描いていました。憧れの選手の横で、盛大な歓声を浴びながら、敵の攻撃を打ち返していきます。

スカル、ウチョック、アチョンはインドネシアで300万人いるバドミントンを楽しむ子どもたちのうちの3人でしかありませんが、プロの選手になるという高い志を持っている彼らのうちの誰かがオリンピック代表になるのも夢ではありません。

諦めずに頑張りましょう。



インドネシア大使館
ホームページ



インドネシア大使館
フェイスブック



インドネシア大使館
インスタグラム



インドネシア大使館
ツイッター



こちらのニュースレターはウェブで見ることができます！
今後も更新していきますので、お楽しみに！
オリンピック・パラリンピック準備局HP（ホームページ）

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaijunbi/kanren/embassies/index.html>

